

【特集：業界情報】

柔整・鍼灸業界と整形外科業界を取り巻く環境変化

はじめに

整骨院・鍼灸院が年々増加し、柔道整復師・はり師・きゅう師も増加する一方、新型コロナ感染拡大に伴い、特に都心部では、患者数が減少し、業界全体としては、厳しい状況が続いていると思います。

その中でも、こちらを読んで下さっている先生方は、患者さまのニーズをとらえ、コロナ感染予防対策を実施し、地域の状況にあわせて経営を変化させたり、工夫をされていらっしゃると思います。今後、日本の人口減少が進んだり、療養費の規制が強化されたりと、さらに厳しい局面を迎えていくので、それに対しての変化が求められていきます。

これから全5回にわたって、今後の院経営に少しでもお役立ち頂ける内容を発信していきたいと思っておりますので、是非とも今後の院の経営のご参考にして頂けたらと思います。

第1回は、「**柔整・鍼灸業界と整形外科業界を取り巻く環境変化**」をお届けします。

柔整・鍼灸業界の現状と今後

柔整・鍼灸業界の現状について施術所数・従事者数の変化および患者変化・療養費の推移から現状と今後についてまとめました。

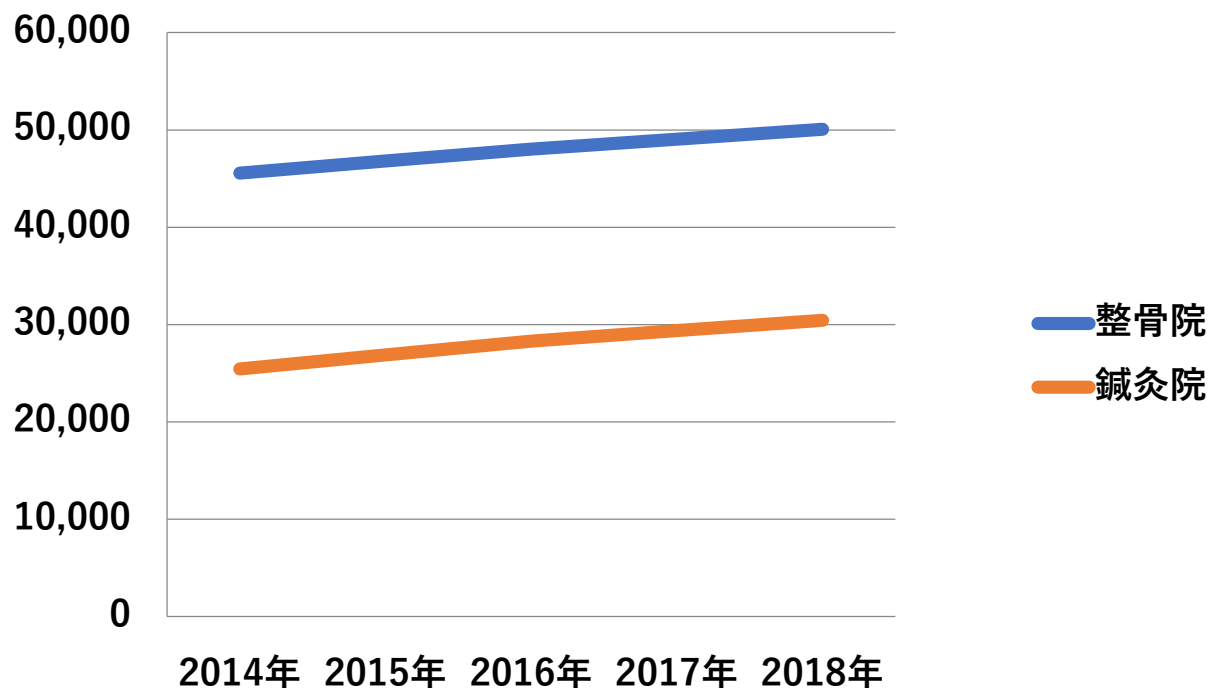
整骨院・鍼灸院 施設数/従事者数

「厚生労働省：医療施設調査」データより、内容編集しています。

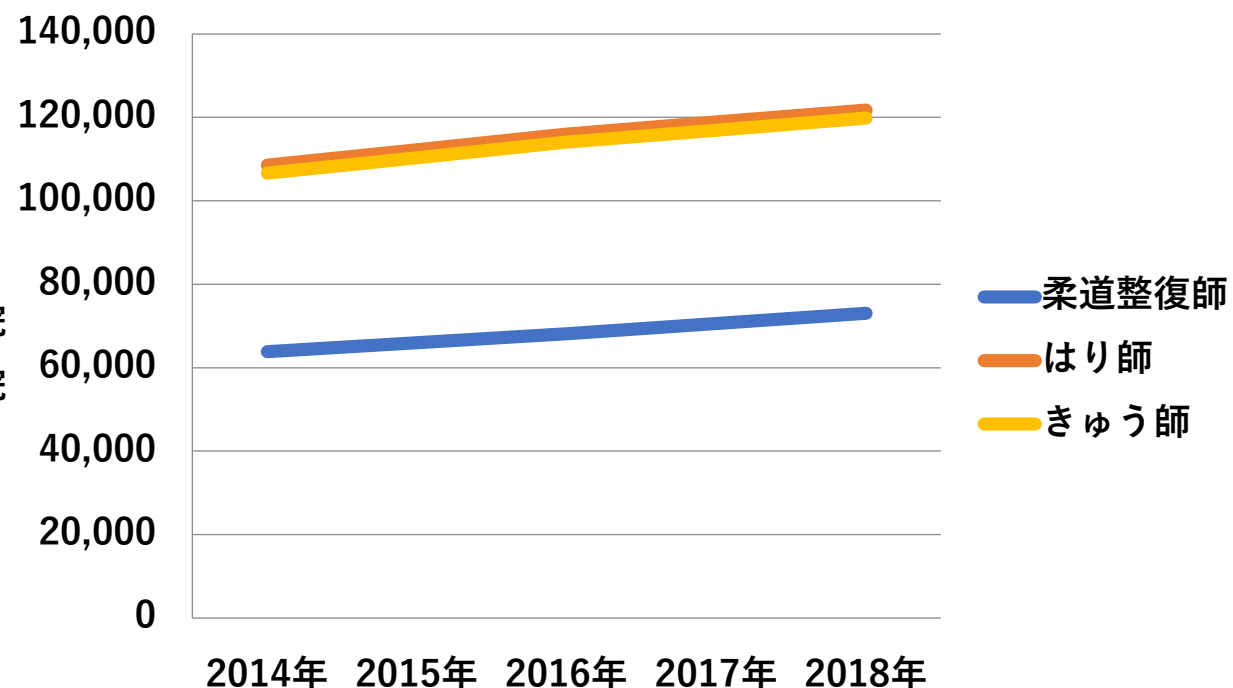
整骨院・鍼灸院 施設数/従事者数

「厚生労働省：医療施設調査」
データの内容編集

施設数(軒)



従事者数(人)



整骨院・鍼灸院の施設数は増加しており、柔道整復師およびはり師、きゅう師の人数も増加している

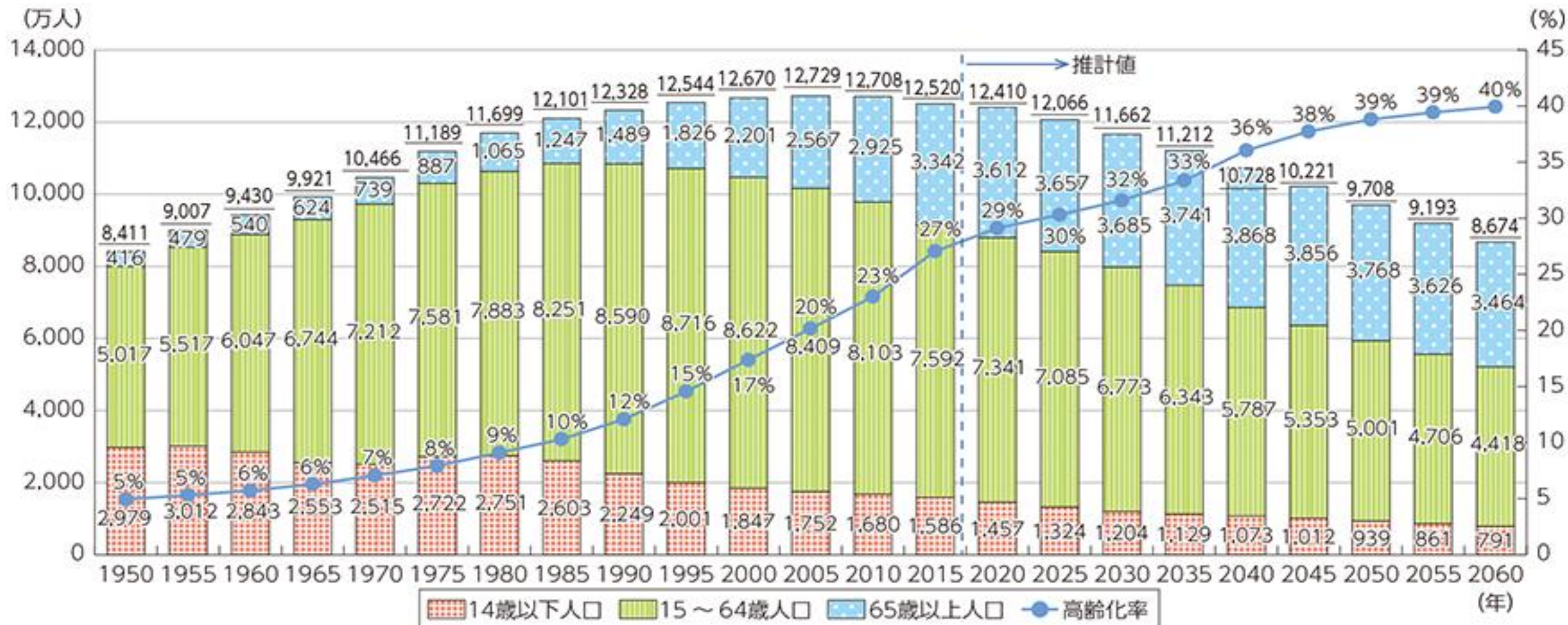
整骨院・鍼灸院 患者変化(人口動態と消費動向から)

人口動態と一般世帯の消費動向から患者変化を推定します。

総務省統計局が行っている、毎月実施している家計調査（家計収支編）二人以上の世帯(調査は全国的に抽出)8076件の平均収支金額より、2016～2021年の動向をデータ抽出し分析しました。

人口動態

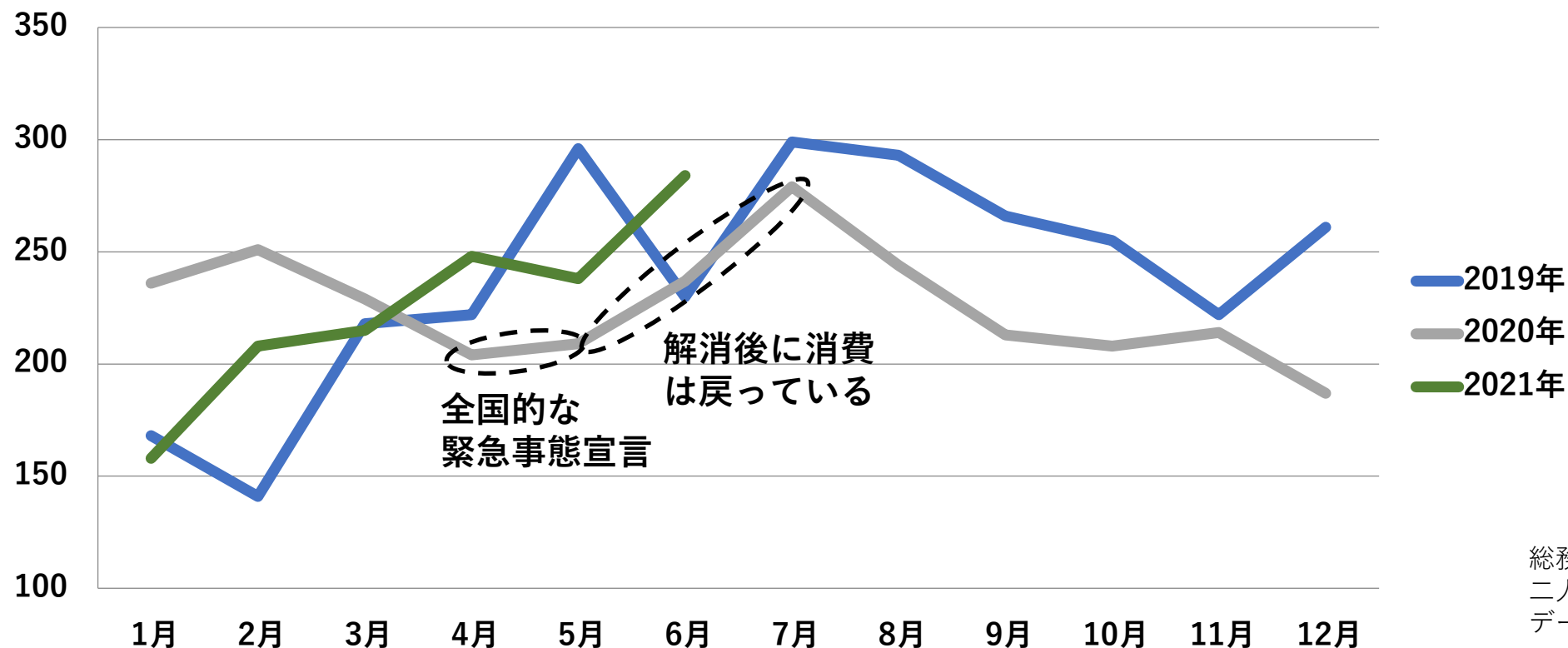
品用元：総務省「図表4-3-2-1 我が国の人口の推移（再掲）」



高齢化率は増加していくが、人口は減少。整骨院・鍼灸院の主な患者層である15歳以上の人口も2020年以降減少していく（2020年：10,953万人から2025年：10,742万人）

一般世帯の消費動向（整骨/接骨・鍼灸院治療代）

整骨/接骨・鍼灸院治療代 月額支出金額 [円]

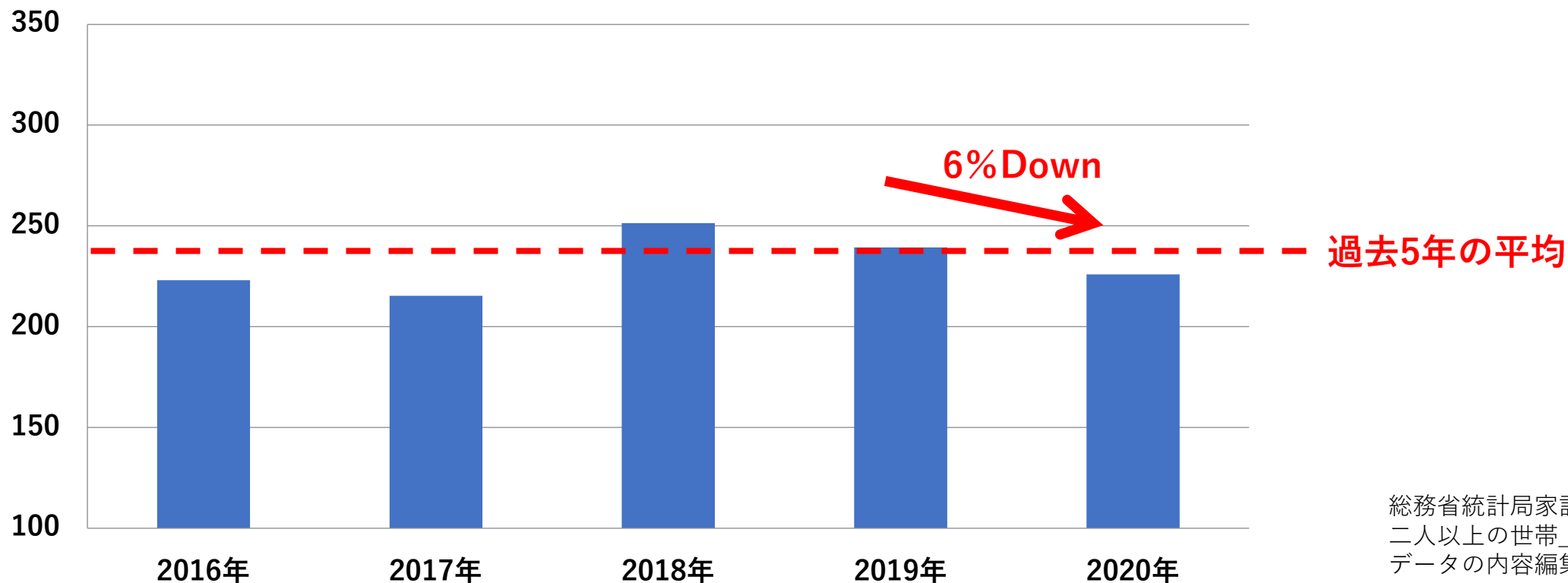


総務省統計局家計調査（家計収支編）
二人以上の世帯_支出金額[円]
データの内容編集

昨年の全国的な緊急事態宣言解消後に消費は完全ではないが戻っている。昨年7月には活動量も増え、消費のピークを迎えている。活動量と消費には関係性がある。

一般世帯の消費動向（整骨/接骨・鍼灸院治療代）

整骨/接骨・鍼灸院治療代 月額支出 年平均金額 [円]



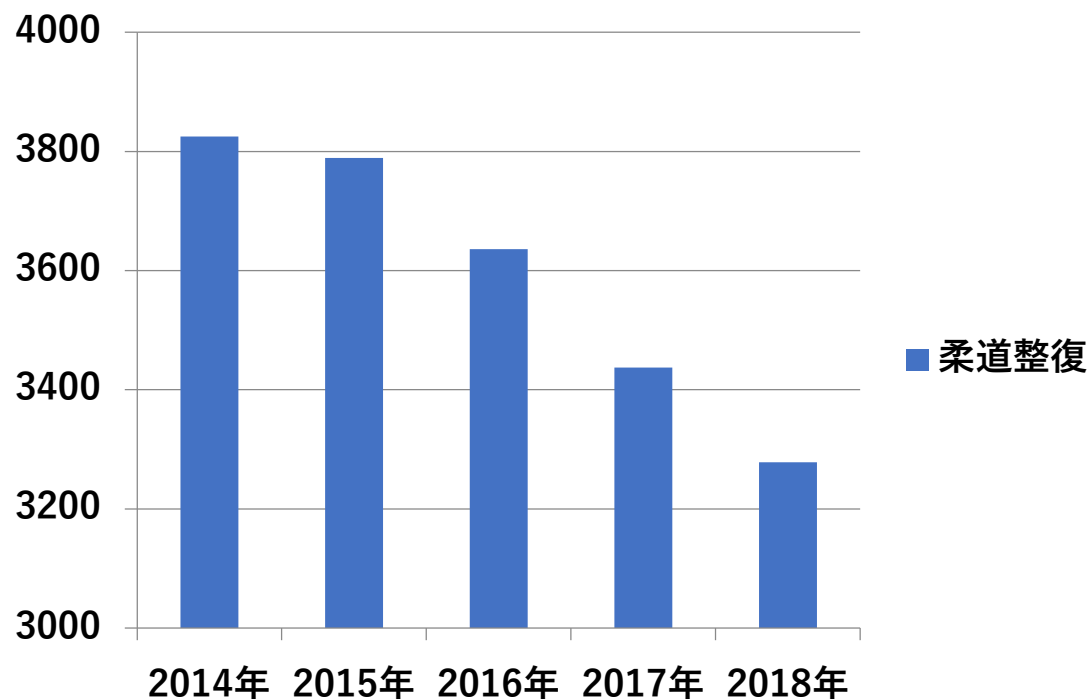
2020年の消費は、コロナの影響もあり2019年から6%ダウンという結果だが、**2016年、2017年よりは、コロナ禍であっても消費は増えている。**グラフには記載がないが、**2021年**も6月までの平均225円は、**2020年の平均226円と同等**の状況。

整骨院・鍼灸院 療養費の変化

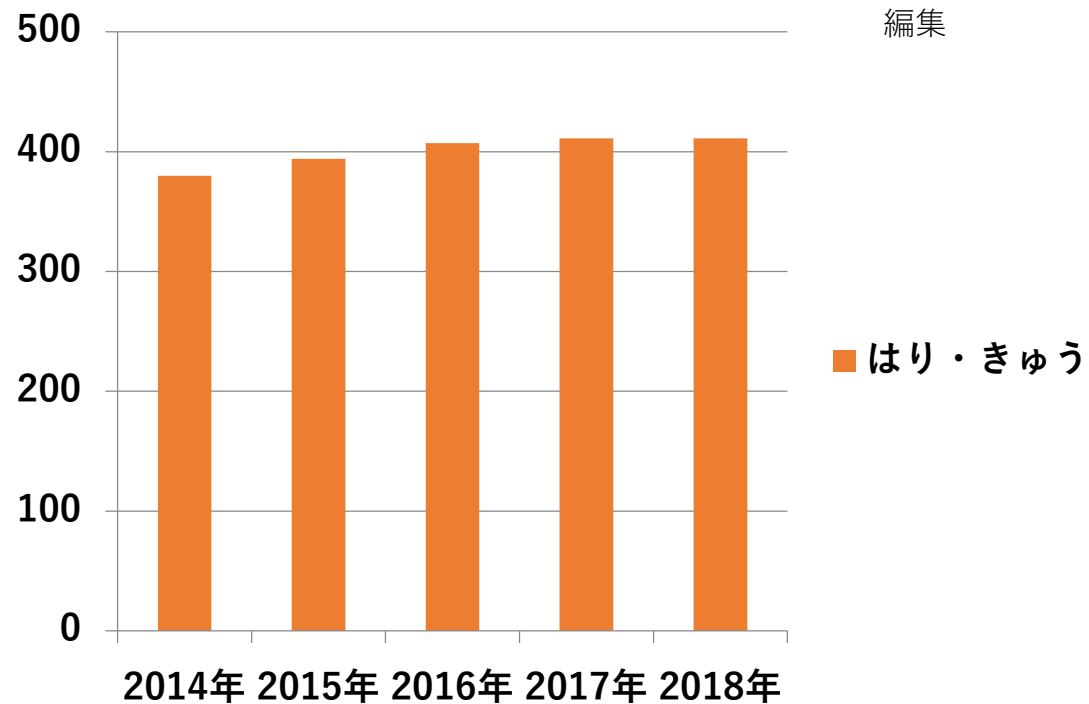
「厚生労働省：医療保険に関する基礎資料～平成30年度の医療費等の状況より」データの内容編集しています。

整骨院・鍼灸院 に関わる療養費の変化

柔道整復（億円）



はり・きゅう（億円）



「厚生労働省：医療保険に関する基礎資料～平成30年度の医療費等の状況より」データの内容編集

柔道整復に関わる療養費は、年々減少している。はり・きゅうに関する療養費は、3年前まで微増していたが、近年は横ばい状態。

整骨院・鍼灸院 現状と今後 まとめ

施設数/従事者数	➡
人口(患者対象年齢)	➡
治療院にかかる消費動向	➡

療養費(柔道整復)	➡
療養費(はり・きゅう)	➡

施設数/従事者数は増加している一方で、患者対象年齢の人口は減少し、1人あたりが治療院にかかる消費もコロナ禍が収まったとしても横ばいもしくは微減の状況で療養費も減少している状況にある。よって、1院あたりの患者数は、減少することが想定されるので、今後に備えてのさらなる対応が求められる。

さらに、同じ対象患者を診ている整形外科の診療所の動向も見ながらの対応が必要となってきますので、次に整形外科の診療所の現状と今後の戦略について整理します。

整形外科 診療所(病床数20床以下)における 現状と今後の取り組み

整形外科業界の現状について柔整・鍼灸業界と同様に施術所数・従事者数の変化および医療費の推移から現状と今後についてまとめました。

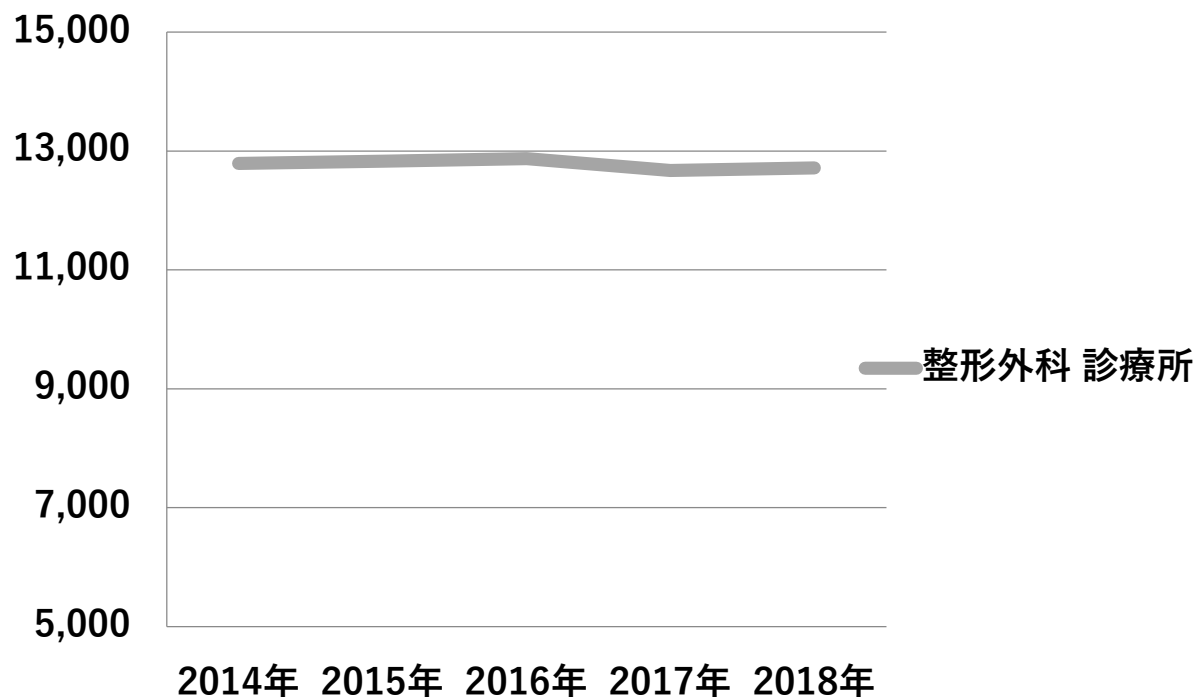
整形外科診療所 施設数/医師数

「厚生労働省：医療施設調査」データより、内容編集しています。

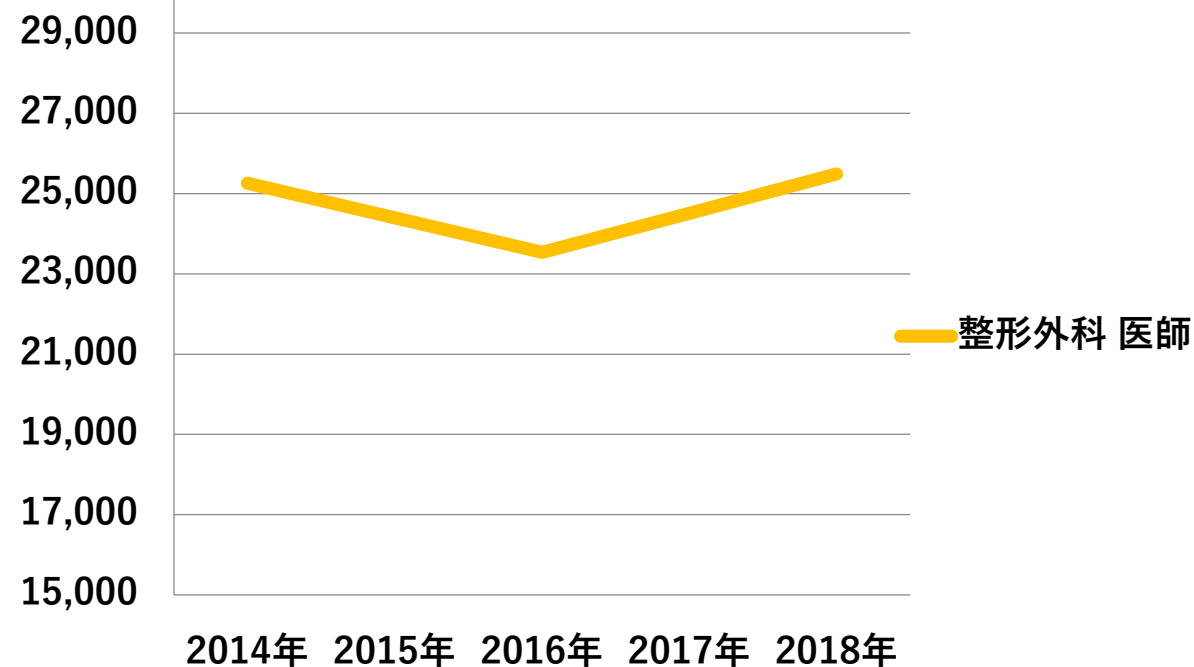
整形外科 診療所(病床数20床以下) 施設数/医師数

「厚生労働省：医療施設調査」
データの内容編集

施設数 (軒)



医師数 (人)



整形外科の施設数は横ばいで、整形外科の医師数も横ばいの状況

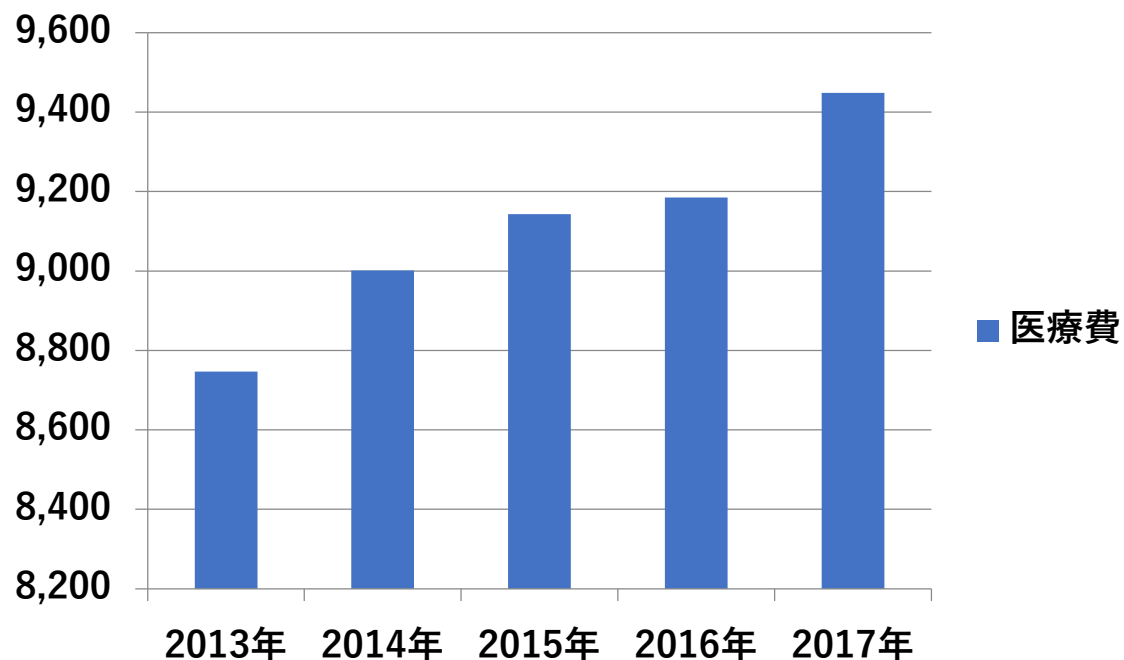
整形外科 診療所 医療費の変化

「厚生労働省： -平成29年度 医療費の動向- 」 「厚生労働省令和元年社会医療診療行為別統計の概況」データより、内容を編集しています。

整形外科 診療所 医療費/リハビリテーション点数

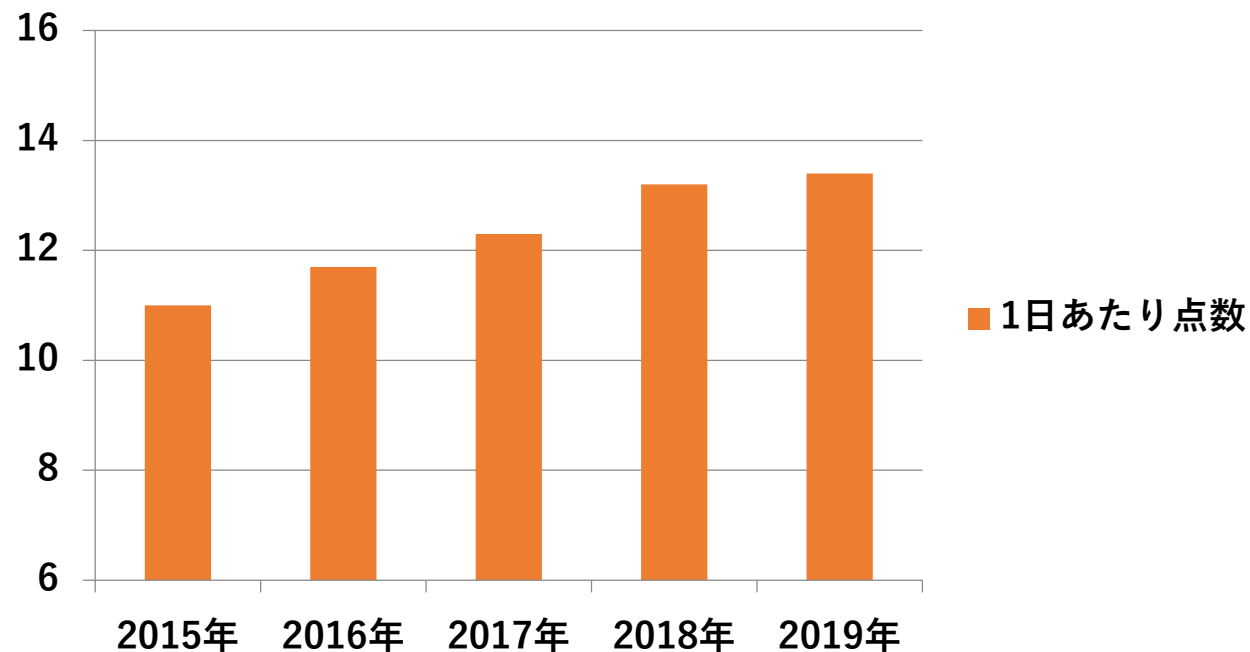
「厚生労働省：-平成29
年度 医療費の動向-」
データの内容編集

整形外科 診療所 医療費 (億円)



「厚生労働省令和元年社
会医療診療行為別統計の
概況」データの内容編集

リハビリテーション点数 年次推移 (点)



整形外科の診療所の医療費は増加しており、中でもリハビリテーションにかかっている保険診療が増加しており、リハビリテーションの患者さまが増えている。

整形外科 診療所 リハビリテーションを含めた今後の取り組み

- 高齢者に対するリハビリテーションは、国の方針として地域包括ケアとして「医療と介護の一体的な改革」ということで打ち出されており、在宅医療・介護を含めたリハビリテーションを行う診療所が増えている。
- 一方、高齢者が患者の約7割を占める整形外科の診療所においては、在宅医療・介護のリハビリテーションを見据えない従来の診療所のスタイルである機械による物理療法中心のリハビリテーションのみでは、厳しい状況になることが予想されている。
- 整形外科の診療所においても、従来のスタイルでは経営が厳しくなっているので、アスリートを対象にしたニンニク注射、PRP療法、美容を対象にしたプラセンタ注射、ピラティス等の自費診療を取り入れ、専門性を謳った診療所も増えている。

整形外科 診療所 現状と今後の取り組み まとめ

施設数/医師数	➡
人口(患者対象年齢)	➡
医療費	➡

医療費 (リハビリテーション)	➡
自費診療	➡

施設数/従事者数は横ばいである一方で、人口は減少。国の方針として「医療と介護の一体的な改革」が打ち出されており、運動器リハビリテーションをはじめとした、在宅医療・介護を含めたリハビリテーションを行う診療所が増えている。

また、従来のスタイルでリハビリテーションを行っている診療所は、経営が厳しくなっていくので、対象者を高齢者とは別に設定し、自費診療を取り入れ、専門性を謳った診療所も増えている。

柔整・鍼灸業界と整形外科業界を取り巻く環境変化 まとめ

柔整・鍼灸業界と整形外科業界を取り巻く環境変化 まとめ

- 今後、日本の人口は減少し、柔整・鍼灸業界および整形外科業界のメインの患者さまである対象年齢層の人口も減少する。
- 柔整・鍼灸業界においては、施設数や柔道整復師・はり師・きゅう師は増加する一方で、1人あたりが治療院にかける消費もコロナ禍が収まったとしても横ばいもしくは微減の状況で、療養費も減少している状況にある。よって、1院あたりの患者数は、減少することが想定される。
- 整形外科業界においても国の方針もあり、従来の経営スタイルからの変化が余儀なくされ、在宅医療・介護を含めたりハビリテーションを行う診療所が増えている。また、対象者を高齢者とは別に設定し、自費診療を取り入れ、専門性を謳った診療所も増えている。
- 柔整・鍼灸業界と同様に整形外科業界を取り巻く環境は、コロナ禍が収束しても激変することが予想され、さらなる経営に対する変化が求められる。

ご覧いただきありがとうございました。

今回「柔整・鍼灸業界と整形外科業界を取り巻く環境変化」についてご理解頂けましたでしょうか？

今後、日本の人口減少が進んだり、療養費の規制が強化されたりと、さらに厳しい局面を迎えていきますが、少しでも経営のお役立ち頂ける情報を発信していきたいと思っておりますので、是非とも引き続き、内容をご確認頂けたらと思います。

次回は、「柔整業界とリラクゼーション業界を取り巻く環境変化」について9月初旬にお届け予定です。